令和５年度　第1回安曇野市総合教育会議　会議録

日　時：令和５年７月４日（火）午後２時00分
場　所：安曇野市豊科交流学習センターきぼう
多目的交流ホール

＜出席者＞

安曇野市長　太田　寛、教育長　橋渡勝也、教育長職務代理者　遠藤正志、
教育委員　横内理恵子、教育委員　二村美智子、教育委員　羽田野賢二

〈補助のため出席する者〉

教育部長　矢口泰、学校教育課長　藤澤一渡、学校教育課教育指導室長　臼井慎詞、
学校教育課教育指導室指導主事　矢野　司、学校給食課長　西澤弘修、
生涯学習課長　二木正、文化課長　三澤新弥、子ども家庭支援課長　山越寿彦、
こども園幼稚園課長　佐々木真貴、学校教育担当係長　城ノ内高明
学校教育担当　宮下俊樹、明北小学校校長　高野恵理、学校庶務担当係長　中田吉成

〈事務局〉

学校教育課教育総務係長　高橋満

〈傍聴者〉

報道機関　　２名
傍聴人　　７名

◎開　会

教育部長　それでは定刻になりましたので、ただいまから令和５年度第１回総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めます教育部長の矢口でございます。よろしくお願いします。

本日の総合教育会議は公開で行いますのでお願いします。

また、会議録作成のため、ご発言の際はお名前をおっしゃってからお願いいたします。

◎市長挨拶

教育部長　初めに、太田市長からご挨拶をお願いいたします。

市長　皆さん、こんにちは。

本年度、第１回目の安曇野市総合教育会議、開催をいたしましたところ、皆様ご多用の中、ご出席を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本年度は安曇野市の総合計画の後期基本計画の実行の年でございますし、また昨年度末に第３次安曇野市教育大綱、これを策定いたしました。４月からスタートしておりますので、この教育大綱に上げました基本理念と基本方針に沿いまして、安曇野市の教育行政を進めていただければと考えております。

本日は、協議事項といたしまして、子どもの命を守る取組について、それから小規模特認校制度の導入についてを予定しております。皆様と率直な意見交換を行いまして、議論を深めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

限られた時間ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

冒頭の挨拶としたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎教育長挨拶

教育部長　続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶を申し上げます。お願いします。

教育長　本年度第１回安曇野市総合教育会議の開催に当たり、教育委員会を代表してご挨拶申し上げます。

太田市長におかれましては平素から市の教育行政に深いご理解をいただき、多大なご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、７月に入り、本年度もスタートして３か月がたちました。これまでの総合教育会議で取り上げていただきました特色と魅力ある安曇野市教育について、また第３次安曇野市教育大綱に基づいて、それぞれの園や学校等で今日まで着実に歩んでまいりました。

本日は、その中からご案内のとおり、子どもの命を守る取組と小規模特認校制度の導入をテーマとさせていただきました。また、教育部６課の進捗状況につきましても、後ほどご報告させていただきます。

では、どうぞよろしくお願いいたします。

◎子どもの命を守る取組について

教育部長　それでは、議事に移ります。

議事の進行につきましては、この会の主催者であります太田市長にお願いいたします。

市長　それでは、議事進行をさせていただきます。

二つある協議事項のうちの一つ目でございます。子どもの命を守る教育について、事務局から説明をお願いいたします。

教育部長　資料の説明につきましては、担当課長からご説明いたします。

学校教育課長　私から子どもの命を守る取組についてご説明させていただきます。

資料１ページをご覧ください。

令和５年４月16日に明科中学校の１年男子生徒が犀川で川遊びをしていたところ、川に落ちて溺れるという水難事故が発生いたしました。経過の概要は資料に記載のとおりでございます。

安曇野市の子どもたちが安全な環境の中で安心して遊んだり、学んだりすることは最も基本的で重要なことと考えております。

そこで、今回の事故を今後にどうつなげ、生かしていくかについて、議題とさせていただきました。では、水難事故の対応についてご報告いたします。

安曇野市教育委員会では、事故を受けまして、市内の全ての小中学校へ身近に潜む水の危険への注意喚起を行い、河川事故防止安全指導を実施いたしました。

資料３ページから７ページに17校のうち明科地域の小中学校３校の河川事故防止安全指導の実績報告を添付させていただいております。

また、明南小学校では、これから夏休みを迎える子どもたち、保護者へ家族などで海や川などに遊びに行ったり、釣りに行ったりする場合はライフジャケットの着用を推奨するというお知らせを配布しています。

明科中学校では、河川に近づく際には保護者に確認すること、ライフジャケットの着用の推奨について、全校生徒へ指導を行っています。

明北小学校では講師を招き着衣泳をプール学習の最終日に実施の予定をしております。

資料２ページには市民の皆様に向けての注意喚起を掲載した広報あづみの令和５年６月21

日発行分を添付しております。

次に、その他の取組についてご報告をさせていただきたいと思います。

先月、６月２日に市内に大雨警報が発令された際には、下校時間の繰上げ、保護者への引渡し、集団下校、部活動の中止と各学校の実情に応じての対応をいたしました。

今後の対応としましては、大雨や地震等の災害への対応、交通事故防止、水泳事故や熱中症など、ふだんの生活の中での子どもたちの安全確保に向けた指導等の取組を継続していきます。

次に、次年度に向けては、新学期が始まり、子どもたちの活動が活発になる時期と用水路の通水時期がちょうど重なることを踏まえまして、４月に認定こども園、幼稚園、小中学校において、水の恵みに感謝するとともに、水に対する安全な関わり方についての啓発を継続していきたいと考えております。こちらの説明は以上となります。

市長　ただいま事務局から説明がございました。

この件につきまして、皆様からのご意見お願いしたいと思います。

羽田野委員　今回の明科地区で起きた水難事故は、同学年の子どもを持つ保護者として、本当に胸を絞めつけられる思いがしました。今回の事故を受けて、各小中学校が改めて安全指導をしていただき、二度と同じようなことが起きないような指導をしていただいたことに大変ありがたく思っております。

子どもの命を守る取組ということですが、子どもたちが平穏な生活を送っていく上で必要なのは、子どもに正しく危険を理解してもらい、様々な危険から自らが身を守る行動をしてもらうことだと思います。それには、地域のどこにどのような危険があるのかを具体的に説明する必要があるというふうに思っております。それには、地域の方の力を借りることが大変重要だと思っていて、昔から地域のことをよく熟知している地域の方々、我々の気づかないことや危険な場所をよく知っている、その知恵をお借りして、例えば危険マップをつくるですとか、地域の行事のときに現地を一緒に歩いてそれぞれの危険箇所を伝え合う、教え合うというようなことをしていただいたらいいかなというふうに思います。

それで、子どもと地域の皆さんと情報を共有して、危険を感じたら直ぐに大人に助けを求められる状態、それから大人は危険な行動を見たら、ささいなことでも声をかける、そんな雰囲気をつくっていくことが大事だというふうに思っています。

そういったことをしっかりやっていく、家庭、地域、学校が協力し合って、子どもたちの安全、命を守っていくこと、それの体制づくりをすることが大事ではないかというふうに思

います。

市長　ありがとうございました。

事務局から後でまとめて、この話をしたいと思います。

他の委員さん、いかがでございましょうか。

横内委員　４月の痛ましい事故で貴い命が失われてしまい、改めて命を守る教育は大切だなということを痛感いたしました。多くの学校で日々への取組を重ねていることだろうと思っていますが、安全教育は安全のための特別なことをやるのではなくて、日常でも、非常時でも活用できるような身近なものとしていきたいと思いますし、学校生活のあらゆる場面で、実社会や実生活と結びついた、生きていく力をつけるということを目指して安曇野市はやっていますけれども、そういったことの延長上に、事故や災害への対応力というのがつくのではないかなと思いました。

今回は大人に伝えたことで、消防等の救助につながったという報告がありましたが、自分の状況を相手に伝えられたりですとか、自分のことだけじゃなくて、他人の危険も周囲に伝えるということができるのは、表現の学習でもあるのかなというふうに感じました。

各学校からの河川事故防止安全資料というのを拝見しました。実践の報告は唯一、明北小学校の視点だけが違っていたように思います。危険だからで禁止するんではなくて、子どもたちの命を豊かに守るために、川と共に暮らしてきた安曇野の文化を体験し、学ぶ機会をつくってあげたいとありました。全く同感だと思います。同感しました。

１学期の最後に水難事故から命を守るために着衣泳を行うという話が先ほどありましたが、水に落ちたときに適切な判断として、命を守るための行動がとれるスキルを体験しながら、理解したり、身につけられる、そういうのがありがたいなと親として思います。

市長　ありがとうございました。

あとの委員さん、いかがでございましょうか。

二村委員　市内各校の児童生徒に対して、水の大切さとともに、水は危ないんだという注意喚起を学校では数年にわたってされているはずです。新年度を迎えて僅かな時期に起きた悲しい出来事でした。忘れてはならないことです。

水の危険以外にもいろんな危険があると思うんですけれども、令和３年度に県教委の学校安全総合支援事業として、自然災害の発生を踏まえて、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育てましょうという事業がありました。県内31校で取り組んで、この安曇野市内では小学校が７校、そして中学校６校が参加しました。支援事業の実施の中で、学校防

災アドバイザーとして信大の廣内先生はじめ、多くの方に関わっていただいたところです。

その実践報告書の中に、豊科北小学校では、令和２年より５学年の行事のキャンプを防災キャンプとして、学校が避難所になったという想定をして、避難所の設営をしたり、テントを張ったり、地域の方々と炊き出し訓練を行ったりしておりました。毎年学校防災計画の見直し、そして避難経路図の確認を職員と共に行っているとありました。この安曇野市からは通勤通学で地元を離れている大人が多い平日の昼間に地震などが起きた際に、防災の知識が身についていれば、とても頼りになる存在であると思います。

子どもたちの中には正義感が強くて、むちゃをしてしまう子がいるかもしれません。周りの大人が、危険が伴うことも含めて指導するのがいいのではと思います。自分の命を守ることにもつながると思います。

消防であったり、看護であったり、救命士であったり、ライフセーバーであったりと、河川事務所の指導を受けるとか、救命措置の学習など、そういう機会を設けるのは、既にやっているところもあると思いますけれども、実施していったほうがいいのではないかと思います。

ただ、この際に、フラッシュバックの心配がある子どもがいるかもしれません。参加に無理がないように配慮して、強制ではないとの確認も大切だと思っております。

市長　ありがとうございました。

遠藤委員さん、ありますか。

遠藤委員　いろいろ出ている中で、今、二村委員からも話があったフラッシュバックの件ですけれども、やっぱり一番配慮してやらなくてはいけないのはどの子も同じなんですけれども、現場にいた３人のお子さんのこれからのケアというのが本当に大事にしていってあげないと、どこでどんな機会でもってフラッシュバックが起きるか。それによって、心、いろいろな面で心配な部分が出てきますので、引き続き本当に注意深く観察したり、見守っていってあげていただければなということを思いました。

次に、いろいろな学校の実践報告を読ませていただいて、各学校でもって本当に工夫を凝らしながら、今回のこの悲しい事件を重く受け止めて、子どもたちに指導していただいたことを本当にありがたいなというふうに思いました。学校においては早速校外の、例えば消防署の方を呼んでいろいろご指導をいただいたとか、そんなような工夫もされていていいかと思いました。

それで、いろいろ取組ある中で、私、本当にこれいいなと思ったのが、明南小学校さんの取組なんですけれども、全学年でもって担当職員の先生が自作のパワーポイントでもって使って、水難事故の場所とか危険性について確認した後、地区児童会の後、集団下校を行って、危険箇所を現地で直接確認したというふうになっています。これほど現実的で有効的な指導はないと思います。いろいろな学校によって事情、方法等もあるわけですが、是非参考にしていただければなということを思いました。

それと、今後の対策のところでいろいろ出していただいてあるんですけれども、私、もう一つ付け加えてほしいのは、水難事故だけに限らず、いろいろな今、世間で騒がれている不審者とか、またはいろいろなトラブル、交通事故も含めてなんですけれども、下校時はできるだけ、可能な限り誰かと一緒に帰る。休みの日に遊びに行くときには、一人で行かないで誰かと遊びに行く、複数で行動するというのは何かあったときの対応として、非常に予防、対応に重要な部分になるんじゃないかなと思いますので、そんなようなご指導も併せてしていただければなということを思いました。

もう１点、今も話に出ている地域の方は、その現場を見たときに、ちょっと川で遊んでいるような子どもを見たときに声をかけるという大事なご指摘、お話もありました。私も全く同感です。それをやはり市として、地域の方に、こういうときには是非声をかけてくださいというようなことを何らかの形でもって周知していただければなということを思いました。

私のほうからは１点ちょっと質問よろしいですかね。

明北小学校さんの報告見た時に、明北小学校さんのところにもともと川遊びをする児童がいないためとか、保護者も近所の川で遊ぶことがない様子であったというようなことが書かれています。今回のことを受けて、子どもだけで川遊びをしてはいけませんという項目をルールに新たに付け加えたというふうになっているんですけれども、明北小学校、木戸橋から考えると、荻原、塩川原、中村、小泉、あそこら辺、全部犀川沿いになっているんですけれども、川遊びする児童がいないというのは指導があってのことなのか。そういう風土とは思えないんですが、何かそれでもしお分かりになるものがあれば、この実態に関わって教えていただければなと思います。

市長　ありがとうございました。

今の遠藤委員さんから質問出ています。お願いします。

明北小学校校長　今回の水難事故で一緒に遊んでいた子どもがうちの学校の卒業生２名入っております。そこの家族はやはり釣りとかやっていて、胴長というんですか、ああいうよう

なものを持ち、祖父と一緒に釣りをしょっちゅうしているような家族だったそうなんですが、その他の子どもたちは特に川に行って釣りをするとか、家族でそのような遊びをするということはアンケートというか、クラスで聞いたらほぼないというような状況でした。

いわゆる昔の方というか、おじいちゃん、おばあちゃんがやるような家庭では一緒になってやるような習慣とか、季節になればどういう魚が出ているというようなことが、知っている方と一緒にやる習慣があるかと思うんですが、割と今どきの若い家庭だとそういうことをゆっくりする時間もないだろうし、あんまりないんだろうなということで、職員がクラスで聞いたところ、そのような話が出ました。

なので、この卒業生が卒業してしまった後は、じっと釣りをするとか、そういう話は特に聞いていないような状況であります。

市長　ありがとうございます。部課長さんには補足ありませんか。

学校教育課長　遠藤委員のご質問については、本日は明北小学校、高野校長先生おいでいただいていますのでお答えをいただきました。

あと、地域と共に安全指導という部分で委員さんのほうからご質問いただいた件につきましては、今後、学校並びに地域の公民館も含めまして、こういった安全指導、行っている内容等、広く周知して、皆様にご協力が得られるように、こちらのほうで努めていきたいと考えております。

市長　委員の皆さんから一通りご意見ありましたので、今まで遠藤さん以外も含めて何か事務局からコメントがあったらお願いします。

教育部長　皆様から貴重なご意見頂戴いたしましてありがとうございました。ご意見の中で、小学校で防災キャンプをやっているというのもありました。確かに何かあればその学校に避難するわけですが、そこにいる小学生がそれを分かっていれば非常に戦力になるな、助けになるなというのはすごく感じました。

それから、フラッシュバックのケアでございます。非常に大切なことだと思います。やはり自分の目の前で今回事故が起こってしまったということですので、教育委員会でも全力を挙げてケアに当たっていきたいなと考えております。

それから、危険だから禁止ではなく、学ぶ、禁止ではない学ぶ機会をつくっていきたい、全くそのとおりでございまして、全て駄目だから、危ない、もちろん禁止もしなければいけないんですけれども、できる限りそういうところから学んで、そして生きていく力といいますか、自分で身を守る力をつけていっていただければなと考えております。

以上でございます。

市長　教育長、いかがです。

教育長　それじゃ、私のほうから１点だけ、これは皆様おっしゃったとおり危険な川には近づくなという指導ではなくて、どうやってこの安曇野の豊かな自然の中のそういった清冽な、あるいは多様な生き物が暮らす川に近づき、付き合っていくかという、そういったことを学ばせる非常にいいチャンスだなと思います。かつては、私の子どもの頃の話ですけれども、烏川の上流のところに須砂渡というところがあるんですが、あそこに宿泊所がありまして、クラスごとに行って１泊して自然体験して帰ってくる、そんなのが伝統的にあったんですけれども、その折に烏川の河原に行って、ちょっとうろ覚えだけれども、そこで泳いだような記憶もあります。日曜日に地域の堰の管理のことで先輩の方々と話をしたときにも、昔はここで泳いだよなという話で、そうだそうだという話が盛り上がったんですけれども、かつては今、見れば相当深くて危険だというようなところも、子どもだけで勝手に行って、いろいろ学んできたと思うんです。それが経験値になって、どういう場所、どういうことをすれば危険かということを学んできた、そんなのが今の大人の世代の上の方々ではないかと思うんですけれども、そういったことを現代の子どもに当てはめることはとてもできない。

じゃ、どうやって、時にはやいばを向く場所にも近づいて付き合っていくかということになると、広報や小中学校でも今回ライフジャケットの着用について推奨する文言が加えられましたけれども、このことについて、もう少し深く研究して、そしてこれが一体どういうものなのか。そして、これをつけることによって、どんな利点があるのかということをやっぱり多くの人に知ってもらう機会にする必要があるかなということを感じています。

これは市民の方からも、「大人の責任として、このことをしっかりと導入したらどうか」というご意見もいただいているんですけれども、命を守るだけではなくて、これをつけることによって、かなり楽しく遊べるというか、安心して遊べるという部分も増えるというものであるということなんです。なかなか実物が目の前にないというのが現実ですが、市の私どもだけではなくて、関係部署も関心を持って紹介していく、あるいは実物を見て活用してみる、そんな取組をしていくことが、今の子どもたちにとっては経験の幅を広げていく上で非常に大事ではないかなと、そんなことを感じております。

市長　出てきているライフジャケットは特にないわけですよね。

教育長　物は私もまだ見てはいないですけれども、インターネット等では紹介されていたり、動画が出ているので見ることはできるんですけれども、実物を直接自分でつけてみるとか、

まだそこまではいっていない。

市長　委員の皆様から今の話の中で続けて述べたいことがあったらお願いいたします。

羽田野委員　今の水難事故のことではないんですが、身近な事故として交通事故というものがすごく、いつも報告されたりもするんですけれども、自分の身を守ることを小さいときからきちんと理解してもらうことが大切ということを言うんですけれども、自分も小学校のときに受けた安全教育で見た交通事故の映像、そういうのを教育の中で何度となく見たのを覚えています。今でも何となくその映像って頭の中に記憶に残っています。

保育園、小学校、中学校と年代に合わせた安全の教育の取組というのは必要だと思うんですが、現状、今、保育園、小学校、中学校でどのような安全教育が行われているのかということを教えていただきたいのと、やはり、安全教育って何度も何度も繰り返し伝えて、記憶に定着させるということがすごく大事だと思うので、そのような取組をしていっていただければというふうに思います。

市長　ありがとうございました。

現在行われている安全教育について、どなたか。

学校教育課教育指導室指導主事　私も２年前まで豊科北小学校のほうにおりましたので、そのときの経験も含めてというところでお話しさせていただきますが、通常の学びとしまして豊科北小学校では、防災キャンプのほうの実施をスタートしました。実際にそういった中で、交通安全に関わるところについては、交通安全指導教室ということが年に１回、中に入っていて、その中で交通安全に関わることについて子どもたち学習をするといったことであったり、あとは水に関わる学習については、やはり夏休み前であったりとか、そういったところの学習の中で、全校集会で水難事故に関わる内容であったりとか、それからあとは用水路に水が通る、いわゆる繁忙期の時期の前の当たりのところで各学年で指導があったり、そういった形で進めてきました。

やはり、先ほど話があったような防災キャンプに関わっては、実際に体育館のところで仮設テントを建てたりとか、それから防災ベンチのほうが豊科北小では当時ありましたので、それを活用して実際に炊き出しを行ったり、地域の方と一緒にそこのところでどうやって火、使っていくのかといったことも含めた、そういった学習のほうが展開されている、そんなような形になります。

市長　他にどなたか。

こども園幼稚園課長　こども園幼稚園についての安全指導についてお話しさせていただきます。

年に２回交通安全教室を実施しております。

春に行う交通安全教室の中では、歩き方だとか、あと信号機のあるところの渡り方を実際に年長児は外を歩いたりもしております。小さいお子さんについては、保育士と一緒に青になったら渡るんだよとか、そういうことを小さいうちからやっております。

後半の安全指導についてなんですが、年長児は小学生に上がるということで、実際に園から小学校までの道のりになるんですが、歩いてここにこういう危ない場所があるんだよと言いながら安全指導を行っています。小学校に上がるとランドセルを背負うわけなんですけれども、急いでいてよけて、そのランドセルがバウンドして車道に出てしまうだとか、そういう指導も受けながら歩き方について指導を受けております。必ず小学校入学前には親子で小学校まで一緒に歩いて、渡り方だとか、ここ危ないねという、そういうことを必ず親子でやってくださいねというふうにはお伝えしているところです。

市長　他にこの件に関しましてご意見ありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

市長　先ほど教育長さんからちょっと話聞きましたが、何かまとめ的に話すことございましたら。

教育長　それでは、最後にまとめさせていただきます。

子どもたちが朝、「行ってきます」と元気に家を出て、午後、「ただいま」と帰ってくる、こんな当たり前の日常がこれからもずっと続くことが全ての人の願いです。しかし、昨今の異常とも思われる気象現象など、人間が制御できる力をはるかに超えた状況が生まれている、こんな現代社会において、本日は私たち大人ができること、しなければならないことについて再確認されたと思います。

その一番大きなことは安全教育かと思います。感受性が豊かであらゆることに興味を持つ子どもたちですが、まだまだ視野が狭く、判断力も未成熟で、感覚で動いてしまう特性も持ち合わせています。改めて交通、あるいは水泳、水遊びなどその場その場で発達段階に応じた適切な行動の仕方を繰り返し、繰り返し教えていくことの必要さが確認されました。

あわせて、子ども自身に身を守る能力や知恵をいかに高めていくかも、私たちに課せられた責務であると考えています。これらについて、今後も学校や園と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。

市長　もし、何かありましたら、どうぞ。あとのほうでもう１回、それぞれでご意見賜りたいと思います。

◎小規模特認校制度の導入について

市長　それでは、次の議題に移りたいと思います。

二つ目の協議事項でございます。

小規模特認校制度の導入につきまして、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長　それでは、私のほうから小規模特認校制度の導入についてご説明をさせていただきます。

経過のほうはご存じのとおりですが、令和４年度第１回総合教育会議並びに令和４年度第２回総合教育会議で協議を行いまして、明北小学校に小規模特認校を導入することの検討を始めることが了承されております。

小規模特認校というのは、小規模ならではの特色ある教育活動を行う小学校や中学校を市町村教育委員会が指定し、保護者の申出により、区域内全域から弾力的に入学、転学することができる制度であります。児童生徒の減少に伴う小規模な学校で取り入れられることが多いものですから、小規模特認校と呼ばれております。児童生徒、保護者が学校を選択できる一つの制度となっております。

本日は小規模特認校の導入に向けての検討状況をご報告し、今後の予定をご協議いただくため、議題とさせていただきました。

資料９ページをご覧ください。

検討に当たりまして安曇野市教育委員会として、既に小規模特認校を導入されている伊那市教育委員会と伊那市立伊那西小学校、伊那市立新山小学校を視察いたしました。

また、資料10ページには伊那市教育委員会への視察以降、学校関係者会議等でも制度の説明、意見交換等を実施し、いただいた意見等を掲載しております。

資料11ページの６月28日、明北小学校保護者説明会のご意見等につきましては、本日お配りをさせていただいておりますのでご確認ください。

また、資料12ページには、導入に向けての今後のスケジュール案を示させていただいております。市教育委員会としては、指定通学区域外からの入学、転学ができるように、安曇野市立学校通学区域審議会へ諮問し、答申を受けた上で、安曇野市教育委員会定例会議でお諮りをし、制度導入を決定してまいりたいと考えております。

今後は、明科北認定こども園、明科南認定こども園の保護者の方々への情報提供、説明会

等も検討しております。

なお、先ほどご発言をいただきましたが、本日は明北小学校の高野校長先生にも同席をしていただいております。

市長　視察の状況報告のデータと、それから明北小学校の保護者説明会のペーパーは今、配付はされたんですけれども、特にその中で突出して報告することはないんでしょうか。

学校教育課長　事務局のほうでいただいた意見の中で大半を占めておりますのは、まず保護者の皆さん等に地域や保護者への情報提供を求めますというところがご質問、ご意見としていただいているところでございます。この部分につきましては、こちらのほうの導入に関しまして、概要並びに今後どうなっていくかということをしっかりと説明して、周知をしていきたいというふうには考えております。

また、学校のほうの対応としてどのような対応をしていくべきかということも、小学校の先生方と一緒に協議のほうを進めて、小学校の魅力等を発信できるようにしていきたいというふうには考えてございます。

市長　僕が聞いたのは視察の結果が足りて、ぱっぱと映して、視察しましただけじゃなくて、その視察から何を考えたかを説明してほしいということでお願いしたんですけれども。

学校教育課長　失礼しました。伊那市のほうの視察に関しましては、こちらのほうにございますが、伊那市の状況を確認させていただいております。

今回、伊那市のほうの教育委員会とお話をさせていただいた中で、まずそれぞれ対象となる学校の魅力をどのように発信をしていくかということと、それに対して地域の協力がないと、指定した学校等のほうに生徒たちが通うということに対して、有意義なところがないというところも確認させていただいております。

また、伊那市の場合には、やはり地域のほうがこちらも学校をなくしたくない、またそういったところから子どもたちをまた呼びたいということで、協力していただいている経過がございまして、各学校のほうが指定を受けて子どもたちが通っているというところもございますので、そういったところも参考にしながら、私どもも進めていきたいというふうに考えております。

市長　ただいまの説明含めまして、この問題につきましてのご意見を伺いたいと思います。

何かありましたらお願いいたします。

二村委員　２点ほど質問があるんですけれども、まず一つこの状況報告いただきました。伊那市の対象児童は全学年とし、転入学も対象になっているとあるとか、導入までの経緯、そし

て広報、そして現場である学校が必要とする芯について参考になるものがたくさん見えたのではないかと思います。

その中で、私には見えないところがあって教えていただきたいです。児童の様子なんですが、通学区の児童は保育園からの流れで入学をします。通学区以外からは車での送迎を受けながら通学をするのが条件になるかと思いますけれども、それで入学をしてきます。自分が通うであろう地元の学校はどんな様子かも知らずに、入学してくる子もいるかと思うんですけれども、自分の学校として入学してきて、その児童たちは楽しく通っているのか。

入学してこんなところが面白い、こんなところが楽しい、子どもたちの声は聞こえてきましたか。子ども目線での発見があるかと思いますが、自分たちの入学後の気持ちや思いは聞き取れましたでしょうか。教えていただきたいと思います。

それともう一つ、明北小の現在通っている高学年の児童たちはふるさと明科のすてきなところであるとか、地域の方々の優しさを実感していると思います。特別なことではなくて、お友達と楽しい時間を過ごしたり、明日の授業が待ち遠しいなと思える学校であるのではないかと感じています。在校生が感じている明北のよいところへの思いを生徒と発信できる機会とか、発信できる方法であるとか、発信したいという思いはあるでしょうか。それを伺いたいなと思います。

市長　事務局お願いいたします。

学校教育課長　まず、伊那市に行ったときに子どもたち個別からご意見をいただくという時間は取れませんでしたので、子どもたちの声を直接というところは拾えていないのは事実でございます。

また、学校の魅力というところの部分につきましては、現状の部分をどのようにということで、子どもたちへ今後、意見を聞きながら進めていきたいということは、こちらのほうでも今、検討させていただいているところでございます。

こちらのほうから今、お答えすることは以上です。

全然答えになっていないと思いますけれども。

市長　視察に行ったのはどなたが行かれたんですか。

学校教育課長　視察に関しましては、私、それと教育指導室並びに学校教育担当のほうで、こちらのほうに行かせていただいております。

市長　担当の方でもいいんですけれども、先ほどの二村委員の質問に対して答えられる方はちょっと答えてください。

学校教育課教育指導室長　それでは、視察に参りましたのでお答えさせていただきます。

子ども個々の声を聞くという機会はなかったという今、課長の話ですが、我々授業の様子を参加させてもらいました。

この伊那西小学校、校庭の片隅に森を持っています。学校林が学校の中にある。子どもたちがその学校の庭に出ていって学習を進めている、そんな光景を見てまいりました。そのときはその庭に二クラス学習に来ていましたが、一クラスが理科、一クラスは探求的な学習ということで来ていましたけれども、どの子も土の中に手を突っ込んで虫かごに虫を入れる。本当に生き生きとしながら自然に触れ合っている、そんな姿を見てまいりました。森の中を駆け回る子どもたちも我々に様子を教えてくれる、声をかけてくれる子もいました。どの子もそういった環境の中にどっぷりつかって学ぶ、そんな姿を見させていただきました。

一方で、この学校はＩＣＴも非常に力を入れているということで、一人１台端末も充実しております。教室においては、子どもたちがＩＣＴ端末を使って、個別の最適な学習をということで進めているところでありますが、学校長のほうは学校見学、それから学校長との面談の上、こういった学習活動に賛同して、お子さんがそれに納得して入学されると。そういったところを確認した上になるということになっておりますので、参加されるお子さんは今、申し上げたような状況になっています。

ただ、一方で見学に来たけれども、やはり自分の求めているところとは違うという判断をされるお子さんもいらっしゃるという声も、校長からは聞いております。

市長　ありがとうございました。

あと、在学している中高学年のふるさとの思いみたいなところは、校長先生ありますか。

明北小学校校長　高学年の子どもたちですが、学年によって明科を救おうプロジェクトというようなことを授業で考えて、昔はこんなに子どもがいたのに、今はこれしかいないんだというような発言が出て、もっと子どもが増えるといいよね。友達増やしたいねというような言葉もストレートに出ているというのが現状です。

地域の人とかと一緒に農業塾とかそういうところで畑や田んぼのことを教わったり、そういう活動をしていて、本当に地域の人に助けられているという思いは、そのたびに強くなっていくと思います。

あとは、シイタケの駒打ちですとか、市役所の林務課の方に手伝ってもらいながらというようなこともやっております。

大きく発信しようというような様子はまだ見られて、コロナ禍で収束していたのなり、見

られていないのですが、今年の児童会はまた外に向かってとか、関わり合えることを考えておりまして、例えば音楽会の導入部分に子どもたちの進行で音楽会に入るようなものを考えたり、児童会では全校鬼ごっこ、全校だるまさんが転んだというような、八十何人でやるような遊びを考えたり、かと思うと１対１で低学年の子に読み聞かせをしてあげるような企画をしたりとか、いろいろ工夫して進めているところだと思います。

これから、また７月、８月進んでいくと、地域のほうにも目が行って、何か面白いことをしてくれるんではないかなと思っております。

市長　よろしいですか。

他の委員さん、お願いいたします。

羽田野委員　小規模特認校ということで、市内の児童の皆さん、選択肢が増えるということになると、これはとてもいいことだというふうに思うんですが、それだけでは明北小に通う児童が確実に増えるというふうにはやっぱり思っていなくて、最も大切なのは明北小が魅力的な学校であること、これをどう発信していくのかということが非常に大事になってくると思います。

今、校長先生もこちらにお見えですので、明北小の魅力をちょっと教えていただきたいのと、先ほど伊那の視察の中で、魅力を発信していくことが非常に大事だということを課長、言われたと思うんですが、具体的に伊那のほうはその魅力をどのような形で発信していったのかということをちょっと教えていただければというふうに思います。

市長　まず、じゃ高野先生のほうから今の話をひとつお願いしたいと思います。

明北小学校校長　ありきたりではあるんですけれども、小規模だということが一つ大きな魅力で、小規模、一クラス15人ぐらいのところが多いです。一番少ないクラスは８人ということで、ちょっとスポーツするにしてもチームが二つできるか、できないなというような数なんですが、やはりそういう小規模のところでどんどん意見が言えるとか、そういうこともあると思います。

子どもがフレンドリーとかと言ってしまうと、どうしてだということにもなるんですけれども、本当にフレンドリーで、誰とでも早く仲よくなれるというのは、本当に見てとれると思います。

そして、例えば支援学級に在籍していて、通常学級と行ったり来たりしているような子がいても、どうして行ったのとか、そういう余分なことは言わないで、さっと溶け込めるとか、そういうことを子どもがあまり気にしないという、そういうフレンドリーさがあります。

それから、立地としてはやはり雷山と廃線敷がもう歩いていけるすぐのところにあるというところが魅力ではあります。やはり、地域の近くにそういういいところがあるというのは、やっぱり数十分歩いていかなければいけないというのではなく、隣接しているというところで、子どもも自分たちの山だと思っていますし、自分たちの廃線敷だと思って生活していますので、まずそこが魅力だと思います。

特認校が始まる前までに、魅力を何かここぞというものをということはないのですが、やはり子どもがもし集まってきた場合には、やはりみんな違ってみんないいというような形で何かが生まれてくるんではないのかなと思っております。

市長　ありがとうございました。

学校教育課からお願いします。

学校教育課長　発信の方法としまして、伊那市のほうで行われておりましたけれども、一番はホームページ、こちらのほうを更新しながら、学校の魅力、活動を伝えていくということがございます。また、学校として体験入学という形の見学会等、こういったものを紹介するチラシ等を作成いたしまして、配布させていただいて、こちらに興味を持っている方々が見にこられる期間等を設定している、そういったことで学校のことをより知っていただくというルールもされておりましたので、そういったことは十分参考にさせていただきたいと考えております。

市長　他の委員さん、ないですか。

横内委員　先月、６月23日に明北小の音楽会に出かけました。校長先生　先ほどおっしゃったとおり、10人いない学年もありまして、少ない人数ですけれども、その子なりの一生懸命がこちらにすごく伝わってきて、昔からそうでしたけれども、変わらない明北小のよさだなと改めて思いました。

音楽会の歌の指導をなさった外部の先生が、ここは一人が担う責任が重大というふうにおっしゃっていましたが、本当に一人一人が主役の学校であるなと思いましたし、みんなが主役っていい学校だなと思いました。体育館いっぱいに響く歌声に感動いたしました。先ほどもありましたが、小規模であるということ、それだけでも十分な特色だというふうに感じた音楽会でした。

この10年くらいの地元の受け止めとしては、いずれこんな感じで子どもの数が減っていって、少なくなっていって、いつの日か明南小と一緒になるんだろうな、でもそれは仕方ないよね、そんな感じでした。ですので、市長が明北小をここに残すと明言してくださったこと

で、地元の中にあったふさいだ気持ちが、その言葉で明るくなったということがあります。

小規模特認校という導入に当たって、市内の他の地域からの入学とか編入が可能となるとのことですが、近くにあるやまほいく、自然保育からの流れを小学校の学びへつなげることを期待して、移住を検討なさってくる方もきっと出てくるわけです。安曇野の自然保育で育った子どもが、地域の自然を活用した特色ある教育を小学校でもつなげていくことができるのは、とても魅力的だなと思います。

私の質問は、例えば他県から安曇野へいらっしゃる子育て世代、または考えているという方へのアプローチというかは、どのようなものがあるのかなということと、私自身、安曇野自然保育というインスタグラムをフォローして楽しく拝見していますが、現在フォロワーが530人くらい。もっともっと盛り上がってほしいかなという思いで見ています。

ちょっと長くなりますが、自然保育に魅力を感じて大阪から移住をして、７月３日、今週の月曜日、明科北認定こども園に通い始めたお子さんがいるそうです。ここに通わせたいと親御さんが思って、明科で住まいを探したそうなんですが見つからなくて、今月中旬までは家族でホテルで暮らし、その後は穂高の住居に入るそうです。

信州やまほいくを目指して明科北認定こども園を選んでもらえて、園は決まったけれども、明科に住もうと思ったときに、とにかく住宅がないんですという声が多いと、昨日園長先生から聞いて驚きました。住まいが見つからないという理由で明科を諦めている人がいるとしたら、それはすごく悲しいし、もったいないなと感じたんですけれども、住んでいる者の感覚としては、空き家はたくさんあるんだけれどもな、どうしてなんだろうという思いでした。自然保育を目指して、子育てしたいと言ってくれる人に、住まいをマッチングしてくれる人はいるんですけれども、園と移住定住促進課へのルートは、そういう方々に　もしかしてつながっていないのかなと思いまして、お尋ねいたします。

市長　ありがとうございます。これはどなたが答えられますか。

教育部長　ご意見頂戴いたしましてありがとうございました。

３月頃だったか、４月頃だったか、ちょっと課長とも話していたんですが、明科北認定こども園にもうちょっと何とかたくさん都会から、いろんなところから園児の皆さん来てほしいなということで話していた中で、とにかくまずは移住定住の課がございますので、そちらと連携してやっていこうじゃないかという話をいたしました。向こうの課とも話をした中で、ちょっとまだ具体的にそれがどういうふうに進んでいるかは報告は聞いていないんですが、とにかくこちらのパンフレットを作るみたいな話はしたよね。こども園のパンフレットを作

ったりして、それで移住定住のほうと話して、それが空き家バンクにつないでと、そういったような話は少しずつですが、今、してきているところです。

委員おっしゃるとおり、そこをつないでいかないとなかなか成果が出てこないと思っていますので、そこら辺はこれからしっかりやっていきたいなと考えております。

市長　他に誰か。お願いします。

こども園幼稚園課長　課の報告のほうにも、載せさせていただいているところなんですが、本年度移住を希望される小さいお子さんお持ちのご家族に、移住定住の担当のほうと協力しまして、保育の体験を考えております。明科北のほうに行きたいという方については、そちらのほうで体験を親子でしていただくんですが、違う場所を希望されれば、そちらのほうに体験希望可能ということで、11月くらいに考えております。

ただ、移住定住の担当とも話をする中にて、横内委員のおっしゃるとおり、明科はなかなか住む場所がないというのは担当のほうでも聞いておりまして、アパートがない、あと空き家もあるんだけれども、なかなか人にお貸しするようなところまでいっていない。なので、皆さん明科にないので、例えば住むところが穂高のほうになるとかということは聞いているものですから、やっぱりその辺のところを移住定住の担当とも話しながらもありますし、また市のほうでも考えていくことなのかなというようには今、思っているところです。

なので、やっぱりここをクリアしなければいけないことなのかなというようには感じております。

市長　今、出た中で、特に空き家対策、これは地元の方々も非常によくやっていただいておりまして、見学会等やっているんですけれども、たしかに委員さんおっしゃったように、現在ある明北のこども園のやまほいくと、それから移住交流等を結びつけたＰＲの仕方が若干弱かったかなというのが一つあります。

それから、空き家対策については、一般的な支援制度はありますけれども、僕は、これは私案なんでまだあれじゃないんですけれども、明科は今現在、過疎地域になっていますんで、その過疎地域の移住ということで、他の地域に比べて手厚い支援ができるんじゃないかなということも考えております。これはすぐにはあれでございますけれども、今後の方向としてはそういう方法もあるかなというのは考えております。

それから、今、僕もちょっと、僕がここまで質問しちゃうのは本当に申し訳ないですけれども、明北の、明科北のこども園に他地域から通っていらっしゃる方は何人くらいいらっしゃいますか。

こども園幼稚園課長　すみません、私のほうでしっかり把握というか、はっきりした数字はないんですけれども、今、明科北のほうに通っているお子さん、人数的には少ないんですよね。生坂から２名、穂高から、池田からというところで聞いていますので、他地区の方になると数名ということになります。

市長　特認制度ができて、少なくとも他地域からも来ることになるとすれば、まずその第一の候補者というのが既に明科北のこども園で自然保育を体験されていて、そのまま明北小学校に行きたいという方も大きなターゲットになりますんで、それはこの前の方々と相談して、私どものほうの進み方についても、こども園の中で保護者の皆様にお話をしてもいいかもしれませんねと思っています。

他の委員さんからございますでしょうか。

遠藤委員　この制度については、昨年度のこの会議のところからもう方向性は決まっているということですので、どんどんと先へ進めていってもらいたいなと思います。総合的に考えて、どちらかというとメリットのほうが多い内容じゃないかなというふうに思っています。

そういう中でもって気をつけていかなきゃいけないのは、やはり先ほどから出ている地域の方のお考え、希望、そんなようなものをどういうふうに酌み取りながら、どういうふうに納得していただいて実施に向けていくかということじゃないかと思います。

その点で言いますと、今日資料を出していただいた６月28日の説明会での中身を読ませていただくと、ありがたいことに反対意見はないんですよね。非常によかったのは、28日の説明会は３年後の一覧に出ているスケジュールのところには載っていないのがここに入っていて、さらに秋に説明会というふうに入っています。ここでもってワンクッションこれを入れたということによって、ここに出てきているような全てではないんですよ。ちょっと地域の方たちの思い、そんなようなものが見えてきている。または課題らしきものが見えてきている。それが今回、早い段階で形になって出てきているということは非常にいいことじゃないかなというふうに思っています。

早くここに出ている難しい課題もありますよね、卒業後は明科中学校への入学も検討してほしいとか、明北小学校以外の学校にやれないとか、大きな課題もありますが、ここら辺のところをまた検討していただいて、クリアすべきところをクリアし、納得していただける形でもって進めていっていただければなというふうに思っております。

それで、あと一つさらに考えていただきたいことなんですけれども、これは11ページにある６月の校長会での話とか、明科地域園長連絡会議等々で出ている加配の問題ですよね。こ

れはやはり、必ずこの問題というものを現場としてはクリアしていかなくてはいけないものじゃないかなということを思います。この制度を使って、特に急に新しいことを何か始めなくてはいけないということはないと思います。今までどおり特色のある、先ほど校長先生がお話しいただいた活動をちゃんとやっていけば間違いがないことだと思います。

ただ、そうはいっても他地区より新しい仲間が入ってくる、そこに対する行くほうも不安だし、迎えるほうも不安だと思います。いろいろ解決しなきゃいけないところがあるんじゃないかと思います。そのことによって、何か新しい課題とか、支障が出てきてしまっては元も子もないような気がします。そうならないためにいろいろ他市町村との連携もさらに深めながら、こんなような加配をさらに加えていただくというところが必要になってくると思います。

あくまでも現在いる加配の任用転換ではなくて、プラスこの加配、例えば名前はともかく伊那市では小規模特認校コーディネーターというような仮り称なのか、そんなような加配をつけていただいているみたいですが、そういう新たな加配というのも必ずご検討いただきたいと思います。

市長　今の遠藤委員から話ししました加配につきまして、現状でいるようでありましたらお願いします。

教育部長　貴重なご意見ありがとうございました。私どももそこを一番考えなきゃいけないなと思っているところでございます。しっかり検討していきたいと思います。

市長　今の点、教育長、何かございます。

教育長　今、安曇野市内では配慮を要する児童生徒が非常に増えておりまして、それぞれの学校から加配の要望は児童生徒数が減っているにもかかわらず、要望は増えているという現状がございます。当然、明北小学校もその例外ではないわけですけれども、どちらかというとそういった対応のための加配というよりは、さらに明北小の魅力を高めていく、小規模特認校を一層充実を発展させていくための何か加配ができたらいいなというふうには思いますけれども、市全体の予算のこともございます。今後しっかりと検討してまいりたいと思っております。

市長　この件に関しまして、他にございますでしょうか。

遠藤委員　先ほど他市町村とか他県からの家庭に対する保育体験とか、そんなような話があったんですけれども、それとも関わるんですけれども、スケジュールのところに６年度６月、または12月、秋冬のところで学校体験というようなものもあるんですけれども、子どもにし

てみると小学校へ学校体験、これはこれで非常にありがたいことだと思うんですけれども、ただ自分が行くときに同じ世代というか、同学年の子どもはそこにはまだいないわけですよね。新しく入るとすれば。

年度途中で２年生に入るとか、３年生に入るとかでしたらできるんですけれども、新しく小学校１年生に入ってくるという子どもに対しては、他の子どもたちはみんな認定こども園とか、そういうところで友達がいて入ってくるんですけれども、その子だけは全然友達もなく入ってくるわけですので、そこら辺大丈夫なのかな。せっかくこの制度を使って入ってきてくれて、友達いないから嫌だといって、そういうこと言われたらかわいそうですし、何か先ほど出た保育体験みたいなことで、小学校上がる前の段階で、保育園の段階で何かできないのかな。改めて形式をきちきちとやって、保育体験ということじゃなくて、もっと気軽にぽっと来て、一緒にちょっと遊んでもらうとか、そんなことを１回でも、２回でもやるだけでも子どもにしてみると、または親御さんにしてみても、気持ちの面で違うのかなということを思っていますが、どんなものでしょうか。

市長　教育部長。

教育部長　貴重なご意見ありがとうございます。

確かに、新１年生に関しましては、周りに友達がいないということも事実ございますので、こちらのスケジュールとしてあります公開授業、学校の体験等につきましては、今後ちょっとこども園幼稚園課とも協議をさせていただいて、幼稚園にもちょっと寄れる時間とか、そういった部分が取れるかどうか、是非検討させていただきたいと思っております。

こども園幼稚園課長　こども園幼稚園課としましても、もしも明科北の明北小のほうに通学を考えているような方がいらっしゃるんであれば、その前に明科北認定こども園のほうに興味のある方はいつでも来ていただいて構いませんというところで、そんな話を園長ともしておりますので、可能になるんではないかなというようには、園のほうでの体験については、実現するようには考えていきたいとは思っています。

市長　他にどなたかこの件に関しましてございますでしょうか。

横内委員　当事者である子どもが主人公になってほしいという思いがすごくあって、部活動の地域移行もそうなんですが、大人が枠組みをつくって、それに子どもたちを適応させる、押し込むようなことはしてはならないという思いがあります。

今回小規模特認校の導入についても、とても難しいことであるけれども、当事者である子どもの言葉や気持ちを引き出して、尊重していかなくてはいけないというふうに思います。

明北小のここが自慢なんだよとか、こんなに楽しいことあるよとか、こんな明北小、こんな学校があったらいいなという夢を語るような切り口で、子どもや保護者に意見を聞いてみるのはどうでしょうか。

先日、保護者説明会の中でたくさん質問が出ました。不安な思いの中、受けた質問が多かったように思います。他地域からは選べるけれども、明北学区の子は行く小学校を選べないのかという質問があったときに、お答えが明北の通学区の子は明北小になりますというお答えでしたけれども、その質問に「そうです」とか、「違います」というふうに答える形式は、その質問をした保護者の不安を払拭することには全然なっていなくて、もっと心を拾ってあげてほしいというか、そういう思いがしました。

北から他に行く自由はないのかということじゃなくて、ここにこんなに豊かな教育が実現するとか、誇りに思える特認校があるよって思ってもらえるような学校をみんなでつくっていきましょうという機運を醸成できるように、丁寧な、丁寧な説明をすることは当然のことなんですけれども、明北小学校を語る会といったような、そういう集りになるような工夫をしてほしいかなと思いました。そんな工夫があれば、地域の考えとか、希望とかもその場所で、その話し合いで酌み取れるんじゃないかというふうに思います。

明北小の卒業生と親御さんに明北小のいいところを教えてと言って、この間聞いたんですけれども、たくさんありました。横のつながりだけでなく、縦の人間関係が盛んであることとか、中学校へ行っても道で小学生と会うと、ようって声がかけられる関係性があることとか、異学年交流の当たり前の姿があったと。男女関係なく仲よしとか、大人になっても仲がいい、保護者にも一体感がある、細かいところまで先生の目が行き届きやすい、目を配ってくれる、全員の顔と名前を憶えてくださっている。どうしても子どもの性格によっては友達と合う、合わないが出てくるんだけれども、クラス替えがないからこそ何とか解決しなければという気持ちが、子どもにも、親にも、先生にも湧いてきて、仲直りをしないわけにはいかないので、人との折り合いをつける力は身につくよというのが、ああそうなんだと感心した出来事でした。

行くほうも不安だし、迎えるほうも不安という話が先ほど出ましたけれども、本当にそのとおりだと思うので、不安を切り捨てることのないように、温かい説明会を今後続けていってほしいなということをお願いしたいと思います。

市長　まず、事務局お願いします。

教育部長　ご意見頂戴いたしました。ありがとうございました。

少しどうも前回の説明会で言葉足らずなところがあったということで、前回の教育委員会の際にご指摘頂戴いたしまして反省しているところでございます。

是非、しっかりと児童、それから先生、地域の皆さんのお話を伺いながら、明北小学校のよいところを酌み取って、そして特認校につなげていきたいなと考えております。

市長　私が市長に就任してから、幾つかの件で、特に教育関係に関わることでいろんな方からいろんな意見がありました。その中で、具体的にちょっといろいろ問題ありますけれども、例えば三郷西部のこども園の民営化の問題でありますとか、堀金小学校の給食センターの廃止問題でありますとか、そういった形で、例えば説明会と称してやるんですけれども、本当の説明会で、一部の中にはこれはもう決まったことですからという説明があったというような話を伺いまして、さっき横内委員から言われましたけれども、説明会というよりは懇話会というか、懇談会というか、保護者の方の意見を聞く会という形で、是非教育委員会のほうも工夫していただいて、一方的な説明ではなくて、広い意味での話合いというか、そういった機会をつくってもらったほうが、僕はこの問題については広い意見が得られるという具合に思っております。

教育長さんのところでもう少しそこを検討していただければという具合に思いますので、よろしくお願いいたします。

他の方、何かございますでしょうか。

二村委員　同じ明科の明南小なんですが、ぽかぽかタイムという日課があって、１週間に一度はお掃除を休んで学年の集いやお友達との話をしたり、体を動かしてみたり、心がぽかぽかする時間を設けているということがありました。６年生が１日、中学校で過ごすという日もあるということをお聞きして、楽しそうだなと思いました。学年を超えて取り組んでいるストリートダンス、これもすごく注目されるところであって、中学生になってもダンスができる。３校一緒に楽しむことができるということがあるのはいいなと思います。

明北小学校は小学校入学前に園で特化型、屋外での活動は１週間に15時間以上、そして普及型、１週間に５時間以上、外での体験、屋外での活動をするということになっていますけれども、それぞれを体験した子どもたちが入学してくるわけですが、その子のよさや特性、また思いをどうやって受け入れて伸ばしていくのか、在校生と一緒につくり上げていただけたらなと感じています。

明科北の保育園から発行されている６月の園便りを拝見しました。ここには３月に巣立った11人の就学先の学校に参観に行ってきましたとありました。その内容の一部ですけれども、

くじら雲で培ったことが生きていて、どの子も皆その子らしく過ごしている。自ら育つことや優しく生きること、様々なことに興味をもって探索しようとしている。感じることから、知ることへ少しずつ移っている気がする。知ることの楽しさをどの子も感じているように見受けられましたという文章が載っていました。

小学校で新しい仲間と学校生活を十分楽しんでほしいと応援する気持ちでいっぱいになりました。

市長　ありがとうございます。

特に今のご意見に対しまして、事務局でありますか。

教育部長　貴重なご意見ありがとうございました。いろいろなところまでしっかり読んでいただきましてありがとうございます。

本当に明科北こども園からいろんなところへ巣立っていって、そしてまたそんなことがフィードバックされていけば、本当にいいなと思っております。

すみません、答えになっていませんが、とにかくありがとうございました。

市長　多分、求めているのは答えじゃなくて感想だと思います。

他にございますか。

教育長から何か思っていることありますか。

教育長　それじゃ、まとめにもなりませんけれども、一言お話をさせていただきます。

昨日、朝、街頭啓発がございまして、ティッシュ配りと挨拶運動を市内の中学校で行いました。そこに立っておられた校長先生が登校してくる生徒に、昨日の大会はどうだったって聞いているんですけれども、そのときに何々君というふうに名前を呼びながら訪ねていたんです。

私、正直驚いて、校長先生、250人も生徒いるのにみんな覚えているんですかとお聞きしたら、「いや全部というわけにはいかないけれどもね」と正直なお話をされたわけですけれども、そこで私は明北小の高野先生の顔がすぐ浮かびました。今、85人だということなんですけれども、高野校長先生は全ての子どもをフルネームでちゃんと言えるというふうにおっしゃっていましたし、そんなことは全然自慢でも何でもなくて、ふだんから当たり前でそういうふうになっているんだと思うんです。他の先生方も、もちろん保護者の皆さんもみんなそうだっていうのが、まさに明北小学校で、ふだん気づいてはいないかもしれないけれども、それが小規模校の最大のよさであろうということを改めて、昨日そんなことを思ったわけです。そういう学校だからこそ一人一人を大事にしている。大勢の中の一人じゃなくて、まさ

に一人の存在を大事にできる学校だということが今後もっともっと発信されていけばいいなと思います。

この小規模特認校導入の目的は、一つ言えば人数を増やしたいということがありますけれども、数字の数を増やすということではない。先ほど子どもたちの発想から言えば、友達を増やしたい、仲間を増やしたい、まさにそれのお手伝いを私たちがするんだというような気持ちで、これから今日いろいろご指導いただいたことを基に地域、学校、園と連携して取り組んでいきたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。

市長　じゃ、この小規模特認校の関係につきましては、資料にスケジュールありますけれども、これはあくまでもスケジュールになります。柔軟な対応の中で最終的な導入に向けまして、検討、協議、意見の聴取等々していく期間というふうに考えさせていただきます。

◎報告事項

市長　あと、報告事項でございますけれども、教育部各課の取組とあります。膨大な資料がございますけれども、大事なところだけ要点を絞ってお願いいたします。

学校教育課長　「学校施設の長寿命化」について資料を読み上げ。

学校給食課長　「地産地消・食育の推進」について資料を読み上げ。

市長　すみません、ちょっと特別栽培米について詳しく説明お願いします。

学校給食課長　特別栽培米は地域の中で栽培をしている中で、農薬とか化学肥料につきましては、通常の慣行よりも５割以下の使用、もしくは化学肥料とか窒素成分についても５割以下で栽培をするということで、とても栽培に手がかかる、大変ではございますが、お米のほうもおいしく、また農家の方の本当に心のこもったお米ということになっております。

市長　次、お願いします。

生涯学習課長　「コミュニティスクール」について資料を読み上げ。

文化課長　「美術系大学との連携」について資料を読み上げ。

子ども家庭支援課長　「児童クラブ整備事業」について資料を読み上げ。

こども園幼稚園課長　「園庭ミニ田んぼ及び園庭プチ田んぼ事業」について資料を読み上げ。

市長　ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がございましたけれども、これらにつきまして、委員の皆様から

ご意見、質問等ありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

市長　私のほうから一つだけ付け加えさせていただきますけれども、最後のページ、こども園幼稚園課の６番のところに園庭の芝生化の話がございまして、今年度から５か年計画で安曇野市内の公立のこども園全園を全面芝生化するということで、事業を始めたいと考えております。

何かございますでしょうか。

（発言する者なし）

◎その他

市長　特にないようでございましたら、他に何か、事務局からその他ございますか。

教育部長　大丈夫です。

市長　それじゃ、今日の全体を通しまして教育長のほうから何かコメントがございましたらお願いいたします。

教育長　今日は二つの大きなテーマをもちまして、第１回の総合教育会議を開いていただきました。それぞれの委員の皆様から率直な意見も頂戴いたしました。また、明北小学校の高野校長先生もおいでいただいて、具体的な内容についてお話を賜ることができました。本当にありがとうございました。

幾つかの大事なご指摘や課題もいただきましたので、これを基にまたこれから一層丁寧な運営に努めてまいりたいと思っております。

本当にありがとうございました。

市長　それでは、本日の総合教育会議につきましては、以上とさせていただきたいと思います。

本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

事務局に進行を戻します。

◎閉　会

教育部長　本日の会議事項は全て終了でございます。

これで令和５年度第１回総合教育会議を閉会といたします。